

# 生活単元学習学習指導案

指導者 小倉 裕子 (T1)

永沼 陽子 (T2)

執行 稜 (T3)

## 1 単元名 「バランスよく食べよう」

## 2 単元設定の理由

生活単元学習は、1年生から6年生まで、計13名の学級合同で行っている。生活単元学習では、昨年度まで、行事的単元や季節単元、課題単元、栽培を中心とした単元等を行っており、調理はお楽しみ会を兼ねて簡単にできるものを計画してきた。

児童は、昨年度まで校庭の夏みかんでジャムを作ったり、落花生を育てゆでて食べたりしてきた。特にジャム作りでは、皮をむいて実をたくさんボールに入れる活動を一生懸命行った。できたジャムは給食のパンにつけてみんなでおいしく食べた。調理をするのは、大好きでどの児童も意欲的に取り組んだ。

今年度は、野菜の世話をすることや成長の様子を観察することをねらいとしてインゲン豆を育てた。自分から毎日水やりをし、成長する様子を楽しみながら収穫を待つ児童が多かったが、中には教師に言われて水やりをし、成長にあまり関心がもてなかった児童もいた。インゲン豆を収穫するときは、全員が嬉しそうで、丁寧に枝からもいでいた。収穫したインゲン豆は、各家庭で食べた。また、夏休み前のお楽しみ会では、ジュースでアイスを作り、アイスパーティをした。オレンジ、グレープ、りんご等凍らせたいジュースを自分で選び、容器に入れて凍らせた。きれいな色のアイスになり、お互い自慢し合って食べていた。

給食の時間はどの児童も楽しみにしている。好き嫌がなく何でも食べることのできる児童もいるが、中には好き嫌いがあり、嫌いな食品が入っていると食べなかったり、苦勞して少しずつ食べたりする児童が数名いる。また、嫌いな食品でも給食だと食べることができるが、家庭では好きな物しか食べない児童も数名いる。家庭のおやつとして菓子パンやアイス、ゼリー、プリン、チョコレート等、甘いものばかり食べたがる児童もいる。教師や保護者に言われているので、好きな物だけでなくいろいろな物を食べないといけないということは漠然とだがわかっている児童が多い。しかし、なぜ食べなければいけないのかということとはほとんどの児童が理解していない。また、調理や食べることには興味があるが、知っている食品の名前が少なかったり、その料理の中にどのような食品が入っているかについてはあまり関心がなかったりする児童が多い。しかし、毎年行っている給食の皮むき(豆類)では、自分たちが準備した食品が給食に出るので、献立に興味をもち、残さずに食べることのできる児童が多い。今年度は、グリンピースの皮むきを体験した。どの児童も皮をむくことに集中することができた。また、いつも食べているグリンピースがいくつか並んでさやに納まっていることを理解し、自分たちが準備した食材が給食にでることで、献立に興味をもち、残さずに食べるすることができた。実際に食品に触れることの大切さを改めて感じた。

児童にとって、正しい食事の在り方や望ましい食習慣について知り、自己管理能力を身につけることは、生

涯にわたって健全な生活を送るうえで大切なことである。そこで、その第一歩として食に関して興味・関心をもち、食べ物（食品や料理名）の名前を知ったり、バランスよく食べることの大切さを理解し、バランスよく選んで食べたりすることができるようになってほしいと考えこの単元を設定した。

一次では、実際の野菜や果物を触ったりにおいを嗅いだり食べたりし、五感で体感することにより食べ物に関する興味・関心を高めていきたい。また、絵カード等を使ったグループ対抗のゲーム（絵カード取り、絵カードと文字カードのマッチング等）も取り入れ、遊びの中で今まであまり関心のなかった食べ物の名前を知ることができるようにしていきたい。また、文字が読めない児童については、「りんご」「なす」等の言葉を聞いてその絵カードが取れるようにしていきたい。

二次では、三つの食品群やその働きについて学習し、学習したことを実際の生活の場で生かせるような基礎を作っていきたい。三つの食品群について学習した後にクッキングボックスゲーム（じゃがいも・人参・玉ねぎ・肉・ルーでカレーに変身等）をやり、いくつかの食品が一緒になって一つの料理になっていることも学習していきたい。そして、げんきキャンプの事前学習としてバイキングのとり方を練習し、げんきキャンプでは、バランスよく料理をとれるようにしていきたい。また、お弁当作り（いくつかの食品の中から、バランスを考えて自分で弁当箱に詰めるものを考えたり、実際に弁当を作ったりする。）をすることによって、バランスよく食べようという意識を高めていきたい。三つの食品群の働きを理解することが難しい児童については、「主食」「主菜」「副菜」から一つずつ取ることや、茶色や白色の食べ物だけでなく、緑色や赤色、黄色などの食べ物も入れるといいことなど具体的に指導をしていきたい。

三次では、フェスタでみんなに勉強したことを教えてあげられるように発表の準備や練習を進める。レストランごっこ（バイキング方式）ができるように食べたい物を考えたり、食べ物の絵を描いたりしていく中で意欲を高め発表につなげていきたい。発表は、レストランごっこをしながらその中でグループごとに担当するようにし、それぞれの児童の実態に応じた発表の仕方ができるように配慮していきたい。また、グループで仲良く活動することも大切にしていきたい。

この単元で学んだことをもとに、「昼はカップラーメンだけだったから、夜はトマトとチーズも食べよう。」というように、児童自ら生活の中で実践していけるようにしていきたい。そのためには、家庭の協力が大切である。保護者には、学習の様子を学級だよりで知らせたり、学習参観で食育の授業を実施し、懇談会でも話題にしたりすることにより、家庭での食事やお弁当の日の食材などに関心をもってもらい、児童の健康のために学校と家庭が連携をしていきたいと思う。

### 3 単元の目標

- 食べ物に興味・関心をもつことができる。
- 食べ物の名前を知り、そのうちいくつかを覚えることができる。
- バランスよく食品を食べることの大切さがわかる。
- バランスよく料理を選んで食べることができる。
- 友達となかよく発表の準備をしたり、練習をしたりすることができる。
- フェスタで自分の係の仕事をやることができる。

#### 4 指導計画（22時間扱い）

次	時間	学習活動	指導や支援の手立て	教材・教具
	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	<p><b>食べ物の名前を知ろう</b></p> <p>① 野菜・果物当てクイズをする。また、そのいくつかを食べる。</p> <p>② ～⑤ 野菜当てクイズをする・ 絵カードを使ってグループ 対抗で絵カード取りをしたり、絵カードと文字カードの マッチングをしたりしてい るいろいろな食べ物を知る。</p> <p><b>※カード取りやマッチングは国 語の学習でも取り組む。</b></p>	<p>○ボックスの中に児童がよく知っている 野菜や果物を入れて、手触りやにおいを 嗅ぎ名前を当てるようにし、興味・関心 をもたせる。また、その後に皮をむいて 食べることにより、元の形と切った物が つながるようにする・</p> <p>○毎時間導入で野菜当てクイズをし、本物 の野菜に触れる機会を持つ。</p> <p>○グループ対抗でゲームをすることによ り、仲良く遊びながら名前を知ったり覚 えたりできるようにする。</p> <p>○三つの食品群のカードもバランスよく 入れておく。</p>	<p>野菜・果物 ボックス</p> <p>絵カード 文字カード</p>
二	6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	<p><b>バランスよく食べよう</b></p> <p>⑥ 三つの食品群やその働きに ついて知り、バランスよく 食べることの大切さを知 る。</p> <p><b>(栄養教諭との合同授業)</b></p> <p>⑦ クッキングボックスゲーム をやる。(じゃがいも+人参 +玉ねぎ+肉+ルー=カレ ー)</p> <p>⑧⑨ げんきキャンプのバイキン グの献立を知り、バランス よく取る練習をする。</p>	<p>○三つの食品群の働きを言葉だけでなく イラストで表したり、紙芝居をしたりし て理解しやすくする。また、バランスが 悪いとどのようなことが起こるかも知 らせる。</p> <p>○クッキングボックスを使い、視覚的に、 いくつかの食品が合わさって一つの料 理になることを理解させる。</p> <p>○料理を絵カードにし、バイキング方式で 自分でお盆に載せていく。絵カードの裏 に食品群の色（黄・赤・緑）をつけてお き、後でバランスよく取れたか自分でわ</p>	<p>食品群の掲示物 絵カード イラスト等 紙芝居</p> <p>クッキングボックス 絵カード</p> <p>絵カード お盆</p>

		<p>⑩ お弁当に詰めたい物を考え、絵カードの中から選んで弁当箱の中に入れる。</p> <p><b>(学習参観で実施)</b></p> <p>⑪～⑬</p> <p>お弁当作りの計画を立て、お弁当を作る。自分でバランスを考えて弁当箱に詰める。</p>	<p>かるようにしておく。</p> <p>○いくつかの食品を絵カードで提示し、その中からお弁当に詰めたい物を自分で考えるようにする。</p> <p>○絵カードの裏に食品群の色を塗っておき、自分でバランスを考えて選べるようにする。</p> <p>○バランスの良い弁当を作ることが目標なので、調理は簡単にできるものにする。(焼いたり、温めたりする程度。)</p>	<p>絵カード 弁当箱</p> <p>食材・調理器具等 弁当箱・箸</p>
三	14 ・ 15 ・ 16 ・ 17 ・ 18 <b>本時</b> ・ 19 ・ 20 ・ 21 ・ 22	<p><b>レストランをひらこう</b></p> <p>⑭⑮</p> <p>バイキングに出したい料理を考え、絵を描いたり色を塗ったり、切ったりして準備をする。</p> <p>⑯ レストランごっこをする。役割を決める。</p> <p><b>※説明係や案内係の児童の練習は、国語の時間でも取り組む。</b></p> <p>⑰～⑱</p> <p>レストランごっこをしながら発表の練習をする。</p>	<p>○考えを出しやすいようにヒントとなる料理の絵も用意しておく。</p> <p>○げんきキャンプのバイキングやお弁当作りで使用した絵カードも使う。</p> <p>○準備の内容は子供の実態に応じて考える。</p> <p>○絵の裏に、食品群の色をつける。</p> <p>○教師がお店の人になり、児童は全員お客さんになる。教師がお店の人の動きの見本を見せ、次時からのイメージがわくようにする。</p> <p>○3グループに分かれて練習する。役割を考えながらグループを決める。1グループが発表担当のときは、2、3グループはお客さんの役をやる。また、フェスタでは、最後の発表グループは発表まで時間があり長時間待つので、待つことのできるメンバーを考慮して決める。</p>	<p>料理の絵 画用紙 マジック等</p> <p>絵カード お盆 机・椅子 掲示物</p>

		<p>⑳㉑ 案内、看板等を作り会場準備をする。</p> <p>㉒ フェスタで発表する。</p>	<p>○子供の負担にならないように、その子供に合った方法で発表できるように役割を考える。</p> <p>○今までの学習で使った物（絵カード・掲示物等）を使って発表する。</p> <p>○バイキング会場を作り意欲を高める。</p> <p>○なかよく楽しく発表ができるように教師も場を盛り上げる。入口近くにT3、バイキング近くにT2、テーブル近くにT1がつき支援をする。</p> <p>○待ち時間（自分が当番でないとき）も飽きないように、配慮をする。</p>	<p>画用紙 厚紙 マジック</p>
--	--	---	---	----------------------------

## 5 研究主題とのかかわり

楽しい授業をつくるための教材・教具の工夫

### 〈クイズやゲーム、ごっこ遊びを取り入れる〉

本単元では、児童の興味・関心の高い「クイズやゲーム」「ごっこ遊び」を取り入れる。野菜や果物当てクイズやクッキングボックスを使用したクイズ、絵カード取りゲーム等を取り入れていく。クイズやゲームが好きな児童にとっては、楽しく遊びながら、食品や料理の名前を知ったり覚えたりしていくことができると考える。最後の発表では、レストランごっこをしながら発表をするという形式をとる。楽しい雰囲気の中で、発表が苦手な児童も、発語がない児童も苦手意識を感じずに自分の係の仕事ができると考える。

### 〈体験的な活動を取り入れる〉

実際に食品や料理に触れ、体験をすることで、楽しく内容を理解することができると考える。

導入では、児童の好きな果物や身近な野菜を触ったり匂いを嗅いだり、食べたりする活動を取り入れる。また、げんきキャンプの食事も児童にとって楽しい体験活動である。最後にまとめとして、自分でお弁当を作る。実際に作ったり食べたりする楽しさは、児童の意欲につながり、知っている食品や料理の幅が広がり、いろいろな料理を食べようとする意識が高まると思われる。

### 〈友達と関わる場面を設定する〉

一次では、グループ対抗で絵カード取りゲームやマッチングゲームをする。自分が楽しむだけでなく、友達を応援したり、友達の苦手な部分を補ったりできるようにしていきたい。その楽しさの中で、食べ物に関する関心も高まってくると思われる。また、三次の発表では、レストランごっこをしながら、お店の仕事をしたり、お客さん役をしたりしていく。友達と活動することで、楽しみながら自分の担当する役割ができると思われる。

### 〈個に応じた手立て〉

一次では、実際の食べ物→食べ物の絵カード→食べ物の文字カードと進んでいくが、児童の実態に応じてゲームができるように使用する絵カードやルール、グループを考えていく。二次では、バイキングの練習や弁当作りのときに、料理を「主食」「主菜」「副菜」のグループに分けて並べたり、無表示でばらばらに並べたり、表示や並べ方を工夫し、児童の実態に応じて料理をバランスよく取れるようにしていきたい。三次では、グループの中でそれぞれの児童が得意なことで係の仕事ができるように配慮していきたい。(案内・説明・絵カードの操作等) そうすることにより、どの児童も楽しく学習に取り組むことができると考える。

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

- フェスタに向けて友達と仲良くレストランごっこをすることができる。
- 自分の係の仕事(案内・説明・掲示等)ができる。

### (2) 本時の展開 (18 / 22)

時配	学習活動	支援の方法 (○全体支援、□個別支援、●評価)	教材・教具
5	<p>1 前時の活動を振り返り、本時の目当てを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     レストランの練習をしよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなでなかよくやる。 (順番を守る。友達の話聞く。けんかをしたら謝る。)</li> <li>・レストランの仕事を頑張る。(あいさつができる。説明ができる。カードを掲示できる。)</li> </ul> <p>2 役割分担の順番を知る。</p> <p>① Aグループ (お店屋さん) B・Cグループ (お客さん)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の目当て、お店屋さん役をやるときの目当てを掲示してしっかり確認する。(T1)</li> <li>○本番の発表ではないので、上手にできなくてもいいが、フェスタに向けて一生懸命練習することが大切だということを話す。(T1)</li> <li>○説明係、掲示係の児童の支援はT1、案内係の児童の支援はT2が中心にやる。T3</li> </ul>	<p>目当てを書いたカード 移動黒板</p> <p>役割分担の表 移動黒板</p>

<p>35</p>	<p>② Bグループ (お店屋さん) A・Cグループ (お客さん)</p> <p>③ Cグループ (お店屋さん) A・Bグループ (お客さん)</p> <p>3 お店屋さんとお客さんの役に 分かれ、レストランの練習をす る。お店屋さん役は蝶ネクタイ をつける。</p> <p><b>お店屋さんの仕事の流れ</b></p> <p><b>いらっしゃいませ係 (案内)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いらっしゃいませ。」「ようこそ。」 「こちらにすわっておまちくだ さい。」</li> <li>・「ここでおぼんをとって好きな物 をとってください。」</li> <li>・「こちらのテーブルにどうぞ。」「す わっておまちください。」</li> <li>・「ありがとうございました。」</li> </ul> <p><b>説明係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いただきます。」 「ちょっとまったあ。」</li> <li>・バランスよく取れているか確認す る。三つの食品群の説明をする。</li> <li>・「みんなバランスよくとれている かな。」 「気をつけましょう。」</li> </ul> <p><b>絵カード係 (掲示)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明係の言葉を聞いて、食品の絵 カードを掲示物に貼る。</li> <li>・「いただきます。」「ごちそうさま でした。」のあいさつをする。</li> </ul>	<p>はお客さん役の児童の支援をする。</p> <p>○お店屋さんの自覚を持たせるため、お店屋 さん役の児童は蝶ネクタイをつけるよう にする。</p> <p>○案内係の児童については、挨拶の言葉を適 切な場所に書いて表示しておく。言葉が思 い出せないときはそれを見て言うように 促す。(T2) また、挨拶の言葉は、実態 に応じて無理なく言えるものにする。</p> <p>○説明係の児童は、お客さんによく伝わるよ うに、はっきりとした声で説明ができるこ とを目指して練習する。(T1)</p> <p>○掲示係の児童は説明係の「黄色は元気の出 る食べ物です。」等の言葉を聞いて、その 色の箱から絵カードを取り、黒板に貼るこ とができるように練習をする。一人では、</p>	<p>蝶ネクタイ バイキング用 の絵 お盆 三つの食品群の掲 示物 絵カード レストランの 椅子やテーブ ル 発表原稿 表示札</p>
-----------	--	---	---

<p>5</p>	<p><b>お客さんの動き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レストランに入る。 「こんにちは。」</li> <li>・ 座って待つ。</li> <li>・ バイキング形式の料理を取る。 「何を食べようかな。」</li> <li>・ 椅子に座って説明を聞く。 「緑の食べ物が少ないなあ。」 「今度からバランスよく取ろう。」</li> <li>・ 帰る。 「ごちそうさまでした。」</li> </ul> <p>・ 説明が1回終わったら、お店屋さんとお客さん役を交代する。お店屋さん役は蝶ネクタイをつける。出す料理も替える。</p> <p>4 本時の活動を振り返り、次時の活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達となかよくできたか。</li> <li>・ レストランの係の仕事がきちんとできたか。</li> <li>・ 次の時間は、もう少し長い時間、お店屋さんの仕事を続けてやってみる。</li> </ul>	<p>難しい児童については、教師も「黄色の箱からとるよ。」等の言葉かけをし、それを聞いて絵カードを取り、掲示物に貼るよう に支援をする。(T1)</p> <p>○お客さん役の子が並んだり、料理をとったりできるように見守り、必要な時だけ言葉をかけるようにする。(T3)</p> <p>□( )については、教師がつかず離れず見守り、必要な時だけ支援をする。落ち着いて参加できていたら称賛する。(T1～T3)</p> <p>□( )については、友達と一緒に行動がとれなかったり、友達にちょっかいを出したり、けんかしたりしたときには理由を聞いてから指導する。様子によっては、しばらく見守り、落ち着いてから集団の中に戻ったり、あやまったりするようにする。順番を守り、友達と一緒に活動ができていたら大いに褒める。(T1～T3)</p> <p>●友達と仲良くレストランごっこができて いるか。</p> <p>●自分の係の仕事ができて いるか。</p> <p>○お店屋さん役になる児童が蝶ネクタイをつけることで、役割が変わったことを明確にする。出す料理も替えることで飽きないようにする。</p> <p>○黒板に掲示した目当てを見ながら振り返るようにする。目当てが達成できていたら大いに称賛し、次時への意欲につなげる。</p>	<p>目当てを書いたカード 分担表</p>
----------	--	--	---------------------------



(3) 教室配置図

